

大津企業景況調査報告書

(第44回)

平成21年 1月～ 3月期 実績

平成21年 4月～ 6月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について

(平成21年1月～3月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業100社にFAX方式による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
建設業	20社	20社	100.0%
製造業	10社	10社	100.0%
卸売業	10社	10社	100.0%
小売業	30社	30社	100.0%
サービス業	30社	30社	100.0%
合計	100社	100社	100.0%

3. 調査期間

調査対象期間は平成21年1月～3月とし、調査時点は平成21年3月9日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数としてDI指数を採用した。DI指数とはDiffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」のDI指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」のDI指数は、3ヵ月前との比較である。

「取引の問合せ」、「採算(経常利益)の水準」のDI指数は、過去比較でなく水準を聞いたものである。

景況感、過去最悪に

平成21年1月～3月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は前期に10年来の過去最悪水準にほぼ並んだが、今期はさらに悪化し平成10年に本調査を開始して以来、過去最悪となった。昨年9月米欧発の金融危機が实体经济に波及して世界経済が失速、その影響が国内景気の急速な冷え込みとなって大津市の製造業、非製造業にもはっきりと表れてきたためと考えられる。製造業は前期に引き続いて過去最悪の水準となり、卸売業、小売業、サービス業(不動産を含む)は今期に過去最悪となった。

□ 業況判断DI(前年同期比)は最悪水準に並ぶ

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前期降下した▲50から今期さらに悪化して▲58となり平成10年に本調査を開始して以来、過去最悪となった。業種別にみると、製造業が2期連続で過去最悪水準となり、卸売業、小売業、サービス業(不動産を含む)は今期に過去最悪水準となった。

□ 売上DI(前年同期比)は製造業で受注が激減、他も大幅悪化

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前期降下した▲43から今期▲69とさらに大幅悪化し売上が急減している。業種別にみると特に製造業が▲50から▲100と全社で受注が激減している。卸売業、小売業でもほとんどの企業で売上が落ち込んでいる。

□ 採算DI(前年同期比)もさらに悪化

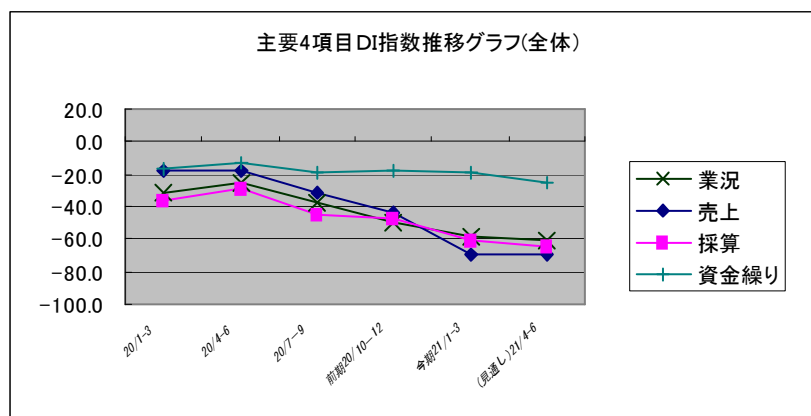
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は前期の▲48から今期▲61とさらに悪化が続いている。「採算(経常利益)水準」指数(「黒字」－「赤字」)も前期▲9から今期▲23と悪化している。業種別にみると、すべての業種で悪化しているが、採算水準は建設業のみ+10と黒字企業の方が多くなっている。

□ 資金繰りDI(3ヵ月前比)も悪化が続く

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は前期の▲18から今期▲19と悪化が続いている。業種別にみると、建設業を除くすべての業種で悪化が続いている。

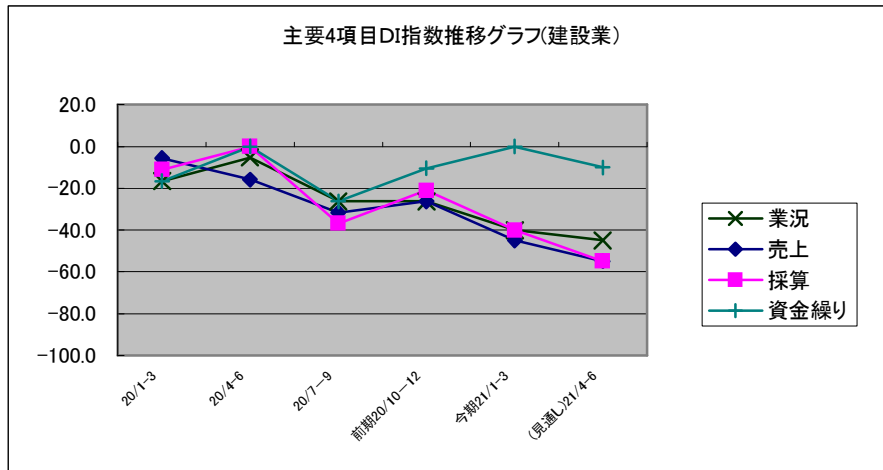
□ 従業員DI(前年同期比)も悪化が続く

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は前期の▲3から今期▲16と過剰になっている。業種別にみると、製造業、卸売業で人員過剰感が顕著であるが、建設業では人員の過不足なしとなっている。



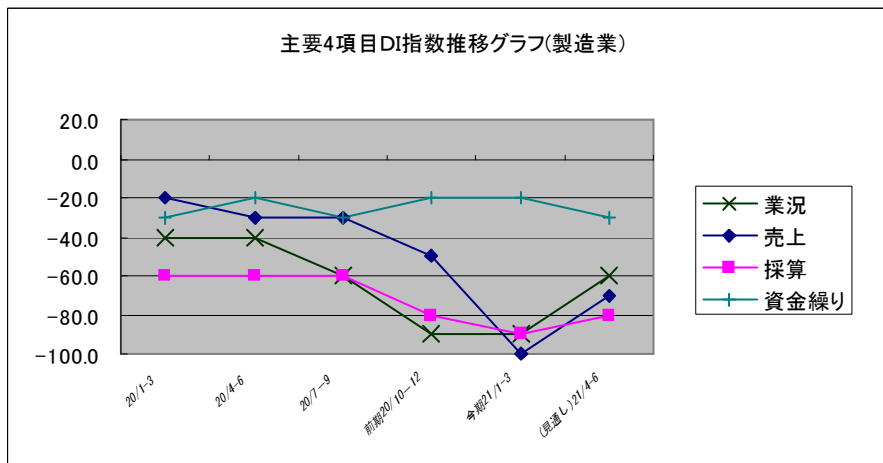
建設業

DI 指数をみると「業況」は前期▲26 から今期▲40 とさらに悪化している。ただし平成 10 年以降の不況期の最悪水準▲65 に比べるとまだその水準にはなっていない。個別指標をみると「売上」は前期の▲26 から今期▲45 とさらに受注が減少し、「取引の問合せ」は▲21 から▲35 と減少し続けている。「採算」は▲21 から▲40 とさらに悪化している。「採算水準」は±0(収支トントン)から+10 とやや改善した。「従業員」は+11 から±0(過不足なし)となった。「資金繰り」は▲11(悪化)から±0(不変)となった。



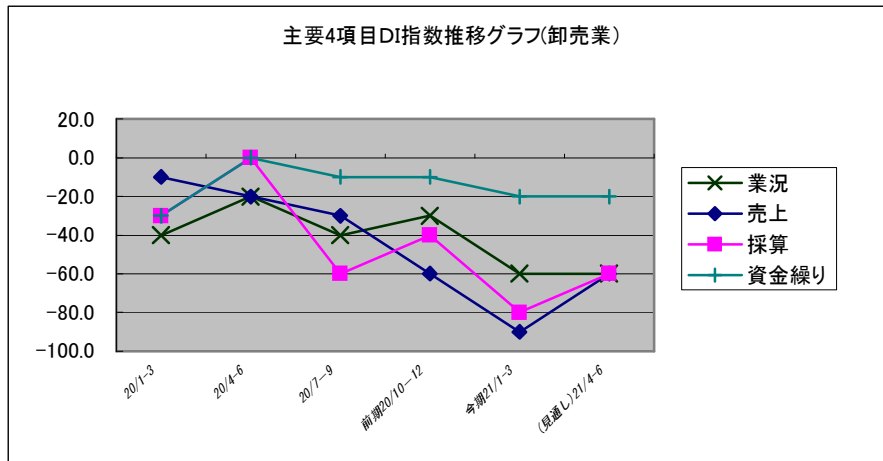
製造業

DI 指数をみると「業況」は前期▲90 から今期も▲90 となり平成 10 年以降の過去最悪水準が 2 期連続となった。「売上」が前期▲50 から今期▲100 と全社が減少し受注の激減を現している。「採算」は前期▲80 から今期▲90 とさらに悪化して「採算水準」は前期の±0(収支トントン)から▲50(赤字)に悪化した。「従業員」は▲50 から▲40 と減産の中で人員過剰が続いている。「取引の問合せ」も▲60 から▲80 と最低の状況になっている。「資金繰り」は▲20 から▲20 で悪化が続いている。業況の悪化は大手企業が需要急減で減産、設備投資抑制等を進めているため中小製造業の受注が激減しているためとみられる。



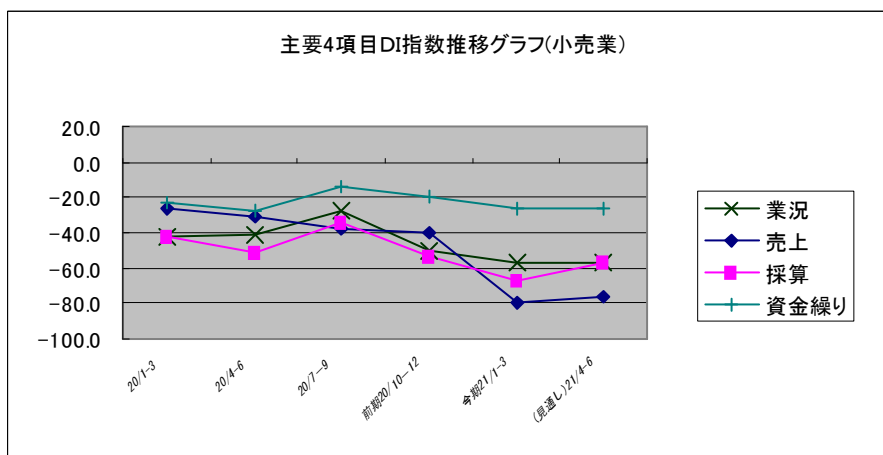
卸売業

DI 指数をみると「業況」は前期の▲30 から今期▲60 とさらに大幅に悪化し、平成 10 年以降の不況期の最悪水準▲60 に並んだ。「売上」は前期▲60 から今期▲90 とほとんどの企業で売上減少し、「取引の問合せ」も▲70 から▲70 と低調に推移している。「採算」は前期▲40 から今期▲80 とさらに悪化し、「資金繰り」も▲10 から▲20 と悪化が続いている。「従業員」は前期の▲10 から今期▲40 と過剰感が増している。



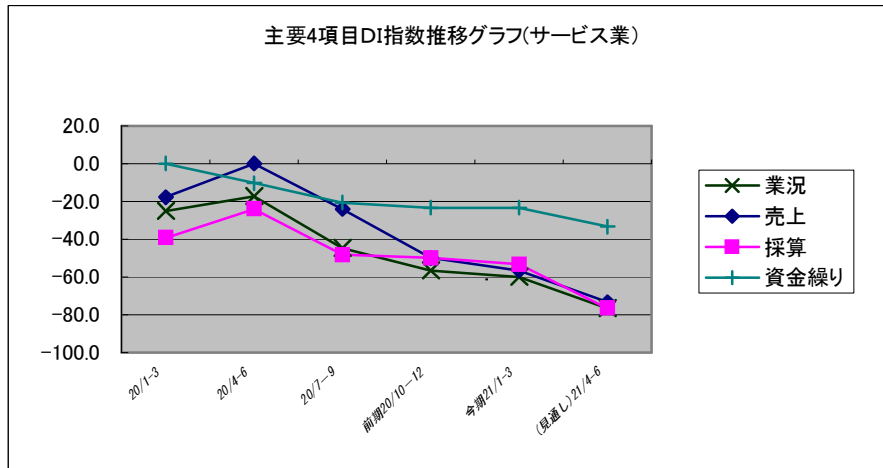
小売業

DI 指数をみると「業況」は前期の▲50 から今期▲57 とさらに悪化し、平成 13 年の I T バブル崩壊不況時の▲57 と並ぶ最悪の水準となった。「売上」は▲40 から▲80 とほとんどの企業で減少し、「採算」も▲53 から▲67 とさらに悪化した。「取引の問合せ」は▲47 から▲67 とさらに低調になった。「従業員」は+3 から▲20 と不足から過剰に転じた。「資金繰り」は▲20 から▲27 と悪化が続いている。業況悪化は、急速な景気の冷え込みによる雇用や設備の縮小が個人消費に打撃になっているためとみられる。



サービス業

DI 指数をみると「業況」は前期▲57 から今期は▲60 とさらに悪化し、平成 13 年の I T バブル崩壊不況時の▲63 と並ぶ最悪の水準となった。「売上」は前期▲50 から今期▲57 とさらに減少し、「採算」は▲50 から▲53 と悪化が続いている。「従業員」は±0 から▲7 と人員過剰感が出てきた。「資金繰り」は▲23 から▲23 と悪化が続いている。業況の悪化は、業種に含まれる不動産業の市況が大幅に悪化していることや小売業と同様の要因によるとみられる。



来期(3 ヶ月先)の見通しについて、全体の「業況」は今期よりさらに悪化して、過去の最悪水準である今期の▲58 を下回る▲61 となる見通しをしている。「売上」は▲69 と減少が続く、「採算」は▲65 とさらに悪化し、「従業員」は▲20 と過剰感が高まる。業種別にみるとすべての業種で「業況」の悪化傾向が続くが、製造業では最悪の悪化度合い▲90 がやや縮小して▲60 になる見通しの一方で、サービス業では今期の▲60 がさらに悪化して▲77 という最低水準に落ち込む見通しをしている。

このように先行き見通しが厳しいのは、日銀短観では「先行き」やや改善の可能性が示されているが、中小企業や内需への波及はこれからで、今後の回復には相当の時間を要するという見方が多いためとみられる。

来期の設備投資については、設備投資計画があると回答した企業の割合が前期の 10% から今期 20% に小幅増加した。製造業では前期の 40% が今期も 40% と横ばい。設備投資をする企業の投資内容は設備更新投資が 35% と多く、生産力増強投資が 30%、合理化・省力化投資が 20% である。また「今後の景気にかかわらず計画通り投資を行う」とする企業が前期 46% あったが、今期 40% に減り、「景気動向によって見直す」20% と「見直す」20% を加えると 40% で、設備投資においても先行き不透明のため慎重な動きが続いている。

(中小企業診断士 田中清行)

(今の経済情勢に対する意見)

今の経済情勢に対する意見を寄せた企業は14社であった。

景況感について

- ・ 買い控え、例年より単価が下がっている。購入可能な方がレンタルになっている。
- ・ 酒販売については低価格志向である。飲食についても日々については低価格志向である。先行は不安定である。
- ・ 私どもの努力不足でしょうが商品が売れません。お客様の購買意欲がない。
- ・ 見通し立たず
- ・ 大型事業（建設・不動産・高級家具類）の伴う業種は一段と悪化すると思われる。割安感が生じている中古マンション市場は、やや好転するのではないか。現状では需要者の購入予算より相当低い物件に成約が集中するのではないか。
- ・ アメリカの住宅関係から始まり自動車、電機等の業種は特に悪い。日本にも同じ苦しみなのしかかって来ていますが、日本人個人の貯金率は世界でも有数の力が有ります。何とか秋頃には「景気が落ち着いた」と成ることを願っています。

景気対策について

- ・ 実態経済の流れと政治家、行政役人の認識が、乖離している。腹だたいしい思いです。口先だけだ。
- ・ 早く景気よくする政策をお願いしたい！
- ・ 消費マインドの低下に対し何ら有効な施策が打ち出されない「もどかしさ」を感じます。将来的に何か少しでも明るさを感じることが出来るなら消費動向もかなり変わってくると思うが。
- ・ 世界同時不況により企業活動が縮小傾向にあり、先行き不透明な不安感が漂っている。そんな中、スピード感を持って不況対策を打つことが重要であると思うと共に、余裕のある企業までもが縮小に向かわない様にするのが大切であると思われる。
- ・ 米国、中国の景気回復を頼りにしてはられない。内需拡大が必要。昨今の新聞、マスコミ報道は、刹那的でピンポイント。マスコミでは現在政府や官庁立案の景気刺激策の全容が見えない。特に中小企業を対象にした支援や補助金の解説があれば、適宜紹介していただきたい。

業界規制について

- ・ 近年大型化、グローバル化に伴い、流通業が力を持ち製造業の利益を圧迫する傾向にあると思います。又、予想以上に小売店を駆逐しています。自由競争社会とは言え、地域の健全な発展のため大型流通業に対する規制が必要と考えます。

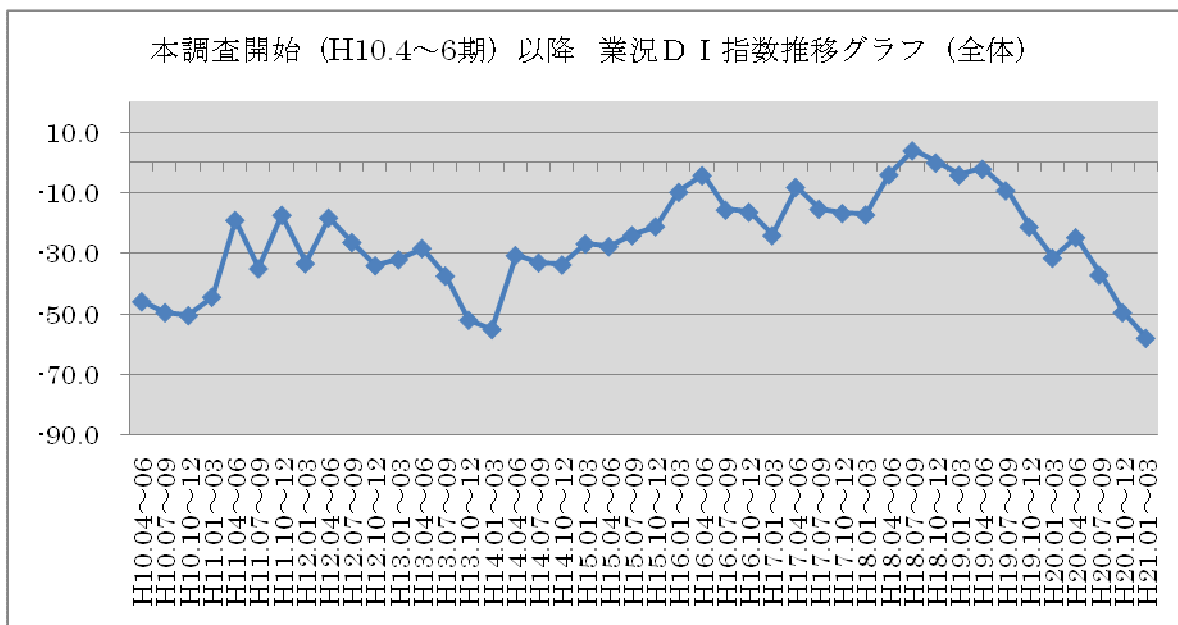
地域開発について

- ・ パルコの隣の好立地に役所、JA、警察本部、労働会館等が建設されるのはなぜ？・・・パルコ、西武←→浜大津（明日都）の間に大型店でも出来、湖岸を歩きながらショッピング、食事etc. が楽しめるようになることは、夢のような話でしょうか？

D I 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 58.0	▲ 61.0	▲ 69.0	▲ 69.0	▲ 61.0	▲ 65.0
建 設 業	▲ 40.0	▲ 45.0	▲ 45.0	▲ 55.0	▲ 40.0	▲ 55.0
製 造 業	▲ 90.0	▲ 60.0	▲ 100.0	▲ 70.0	▲ 90.0	▲ 80.0
卸 売 業	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 90.0	▲ 60.0	▲ 80.0	▲ 60.0
小 売 業	▲ 56.7	▲ 56.7	▲ 80.0	▲ 76.7	▲ 66.7	▲ 56.7
サービス業	▲ 60.0	▲ 76.7	▲ 56.7	▲ 73.3	▲ 53.3	▲ 76.7
	昨年の同期との比較		昨年の同期との比較		昨年の同期との比較	
	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見通し
全 体	▲ 23.0	▲ 29.0	▲ 61.0	▲ 70.0	▲ 16.0	▲ 20.0
建 設 業	10.0	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 70.0	0.0	▲ 5.0
製 造 業	▲ 50.0	▲ 20.0	▲ 80.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 20.0
卸 売 業	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 70.0	▲ 60.0	▲ 40.0	▲ 30.0
小 売 業	▲ 36.7	▲ 43.3	▲ 66.7	▲ 70.0	▲ 20.0	▲ 16.7
サービス業	▲ 13.3	▲ 20.0	▲ 63.3	▲ 76.7	▲ 6.7	▲ 30.0
	該当期について		該当期について		昨年の同期との比較	

	資 金 繰 り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し	1-3 月期 動 向	4-6 月期 見 通 し
全 体	▲ 19.0	▲ 25.0	▲ 18.0	▲ 17.0	▲ 21.0	▲ 19.0
建 設 業	0.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 10.0
製 造 業	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 10.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 40.0
卸 売 業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
小 売 業	▲ 26.7	▲ 26.7	▲ 13.3	▲ 10.0	▲ 16.7	▲ 13.3
サービス業	▲ 23.3	▲ 33.3	▲ 30.0	▲ 26.7	▲ 23.3	▲ 23.3
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	



大津商工会議所

〒520-0806 大津市打出浜2番1号

コラボしが21・9F

TEL 077-511-1501

FAX 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>